

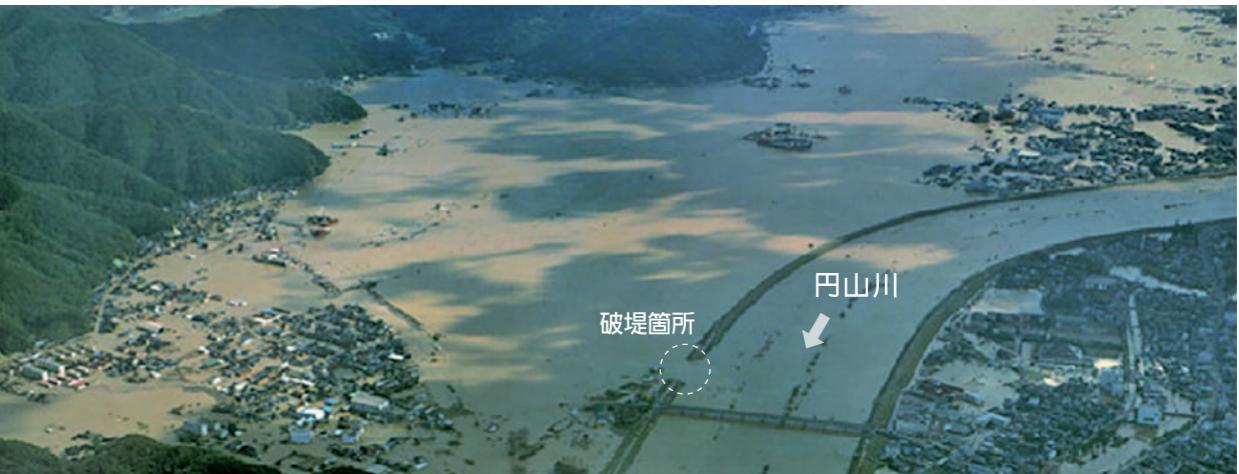
円山川破堤(平成16年)から20年

—円山川の破堤等により豊岡市ほぼ全域が浸水—

平成16年は、7月に梅雨前線が活発化し、新潟・福島豪雨、福井豪雨が発生。福井市内では足羽川が破堤しました。同年10月には、台風23号により円山川及び支川出石川の大臣管理区間2箇所で破堤し、広範囲で浸水被害が発生。由良川では観光バスが濁水中に取り残されました。

この年は、全国各地で風水害が発生し、多くの死者・行方不明者を出した年でした。今年は、これら洪水発生から20年を迎えます。

1. 円山川、出石川の破堤



円山川右岸の破堤により浸水する豊岡市【出典：国土交通省HP】

円山川では、兵庫県豊岡市の右岸で約120mが破堤。左岸側堤内地も円山川河川水位の上昇に伴い内水排水ができず、外水(河川水)と内水の氾濫が生じました。支川出石川では、出石町(現豊岡市)の左岸で破堤し、一連堤防の背後地の宅地、農地がすべて浸水しています。この結果、現豊岡市域では、浸水家屋7,944戸、浸水面積4,083ha等の甚大な被災となりました。

また、約6万人の住民に避難勧告・指示が出されました。しかし、実際に避難したのは約5,700人と10%に届きませんでした。破堤による直接被害で1人が亡くなり、1人は裏山崩壊による家の下敷きに。その他、冠水した道路を車や徒歩で進んで5人が漂流に流れ、計7人が亡くなりました。

2. 浮き彫りになつた課題

平成16年は観測史上最多となる10個の台風上陸記録。日本近海の海水温が平年より高く、これが上陸数を増やし強い勢力での上陸を助長した可能性が指摘されています。全国の死者・行方不明者の約6割が65歳以上の高齢者であったことから、災害時要援護者の対策が課題として浮き彫りになりました。

さらに、避難勧告・指示が発出されたもの、実

際に避難した人が少なかったことから、日常的な状態を前提にして楽観視してしまった「正常化の偏見」が働き、初動避難が遅れた可能性も指摘されています。

3. 進められる対策

円山川では、平成16年洪水と同規模の洪水に対して、浸水被害の軽減を図るため、平成16年度から22年度にかけて激甚災害対策特別緊急事業により集中的に河川改修を実施、その後も高水敷削削等の河川改修とコウノトリとの共生を目指した自然再生が行われています。

加賀湿地上に飛来したコウノトリ【出典：豊岡河川国道事務所】
※加賀湿地…河川改修(高水敷削削)に併せ湿地を再生

全国的にも、気候変動を踏まえた「流域治水」や、災害対策基本法改正等による災害時要援護者の取組が進められています。また、避難に関する情報提供の改善や、マイ防災マップ、マイタイムライン等、それぞれの地区や個人の状況に応じて、安全な避難を確実にするためのツールの普及も進められています。



あらゆる関係者の協働を表した「流域治水」のロゴマーク

【参考資料】平成16年風水害の特徴と今後の課題(国土技術政策総合研究所)/内閣府防災情報のページ/国土交通省HP/豊岡河川国道事務所HP】

本誌は、近畿の「道の駅」、一部の府県および公共施設などに配布しています。
インターネット環境をお持ちの場合は、
https://kyokai-kinki.jp/archives/category/public_magazine
においても最新号とバックナンバーをご覧になれます。
誠に申し訳ございませんが、バックナンバーの配布は行っておりませんので、ご了承ください。



今月の川シリーズでは「足羽川」を取り上げました。今年は、足羽川が破堤した福井豪雨や円山川の破堤から20年を迎えます。洪水後、各河川で対策が進められていますが、地球温暖化の影響により、今後、計画対象の降雨が約1.1倍、流量が約1.2倍になると想定されています。計画の見直しも順次進められていますが、あらゆる関係者が流域全体で行う「流域治水」が益々重要になるとともに、いざという時に各個人で主体的に避難行動をとることがなにより重要だと改めて感じました。

【担当】森川一郎、益倉克成、和田桂子、鈴木里奈、服部龍雄】



表紙写真



福井県福井市『足羽川の桜並木』

目次

- 3 水ものがたり
世界の川と水インフラ(14) -ドナウ川・ライン川上流域(その1)-
- 6 川シリーズ
不死鳥の都市を流れる 足羽川
- 10 世界の水
水辺空間を生かした都市再生の事例 ヨーロッパ:スウェーデン・港町マルメー
- 12 水を訪ねて
九頭竜川流域の水都物語
- 14 京都の水文化(その11)
三川合流「木津川・宇治川・桂川」の地 ~地図を変えてきた価値~
- 18 水と文学
空海の風景
- 22 みんなの水辺
シェアリングネイチャーの熱い思いで! ~「おにぐるみの学校」の活動~
- 24 うおーたーねっと
水都大阪と幻の大坂大国技館(20)
- 26 排水機場訪問記 -関係者に聞く-
由良川(福知山市域)その2
- 28 トピックス
円山川破堤(平成16年)から20年



世界の川と水インフラ(14)

—ドナウ川・ライン川上流域(その1)—

(公財)河川財團研究フェロー

池淵周一



ドナウ川の源流は、ドイツ国内でライン川と分水界を形成している。今回はドイツ国内のドナウ川・ライン川上流域の姿と水インフラとして流れダム式発電所群を、次回で河川堤防とマイン・ドナウ運河について述べたい。



図-1 ドナウ川・ライン川上流域

図-1にドナウ・ライン分水界とドイツ国内を流れるドナウ川、ライン川の本川・支川を示す。主な都市、水インフラ施設も併記している。分水界に見られるようにドナウ川上流域はライン川流域の中に東からくさびのように窄入りしている格好である。

ドナウ源流の石灰岩地帯

ドナウ川の源流は「黒い森(シュワルツワルト)」と言われているが、シュワルツワルトは平均標高678m、全長160km、面積6,000km²の石灰岩地帯で、その多孔質性から水を通しやすい。植林されたドナウ源流の石灰岩地帯である。ライン川の支川ネッカー川をはじめ多くの川がこの地を源流にしている。分水界にあるシュワーベン・アルプ、フランケン・アルプは山岳地帯といえどもドナウ川との標高差は数100mほどで石灰岩地帯である。アルプの

名は高原牧草地からきており、この地では放牧が盛んである。石灰岩地帯では雨水が地下に浸透し地下水として流れ出るが、ブリガッハ川の一部区間やシュワーベン・アルプ南縁のジグマリンゲンからウルムの間では、十数キロに渡ってドナウ川のしみ込みが著しい区間がある。わが国でも大分県南部を流れる番匠川では、川の水が3~4kmの中の石灰岩層の溶食部を伝つて川水が流れている。石灰岩の地層を通して湧出し泉をなすところも多い。ドナウ源流の泉やグラウ川上流のグラウの泉(写真)、また分水界を越えた地にいくつもしみ込んだ水が湧出している。なかでもアーハの泉は有名で、ドイツ最大の湧出量を誇り、平均8·8m³/秒、最低5·0m³/秒、最大24·0m³/秒と銘板に記されている。青く透き通った水面には教會が映え、泉の袂には女人像が微笑



ブラウの泉(石灰粒子で青く見える)

とドナウ川・ライン分水界のドナウ川、ライン川の本川・支川を示す。主な都市、水インフラ施設も併記している。分水界に見られるようにドナウ川上流域はライン川流域の中に東からくさびのように窄入りしている格好である。

ドナウ源流の石灰岩地帯では放牧が盛んである。石灰岩地帯では雨水が地下に浸透し地下水として流れ出るが、ブリガッハ川の一部区間やシュワーベン・アルプ南縁のジグマリンゲンからウルムの間では、十数キロに渡つてドナウ川のしみ込みが著しい区間がある。わが国でも大分県南部を流れる番匠川では、川の水が3~4kmの中の石灰岩層の溶食部を伝つて川水が流れている。石灰岩の地層を通して湧出し泉をなすところも多い。ドナウ源流の泉やグラウ川上流のグラウの泉(写真)、また分水界を越えた地にいくつもしみ込んだ水が湧出している。なかでもアーハの泉は有名で、ドイツ最大の湧出量を誇り、平均8·8m³/秒、最低5·0m³/秒、最大24·0m³/秒と銘板に記されている。青く透き通った水面には教會が映え、泉の袂には女人像が微笑

水ものがたり

世界の川と水インフラ(14) -ドナウ川・ライン川上流域(その1)-

京都大学名誉教授 いけぶちしゅういち
(公財)河川財團研究フェロー 池淵周一**川シリーズ**

不死鳥の都市を流れる 足羽川

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例 ヨーロッパ:スウェーデン・港町マルメー

工学博士 なかのまさひろ
元大阪産業大学教授 中野雅弘**水を訪ねて**

九頭竜川流域の水都物語

(一社)近畿建設協会 水環境研究部門 顧問 なかのまさひろ
京都大学 防災研究所 特任教授 和田桂子**京都の水文化(その11)**

三川合流「木津川・宇治川・桂川」の地 ~地図を変えてきた価値~

京都産業大学 現代社会学部 教授 鈴木康久

水と文学

空海の風景

評論家・文化プロデューサー かわうちあつろう 河内厚郎

みんなの水辺

シェアリングネイチャーの熱い思いで! ~「おにぐるみの学校」の活動~

「おにぐるみの学校」会長 小林圭介 こばやしけいすけ
環境学習部会長 辻田良雄 つじたよしお**うおーたーねっと**

水都大阪と幻の大坂大国技館(20)

水都の会 城北川プロジェクト代表 藤井薫 ふじいかおる

排水機場訪問記 -関係者に聞く-

由良川(福知山市域)その2

近畿水管理・国土保全研究会 梅田和男 うめだかずお

トピックス

円山川破堤(平成16年)から20年

足羽川

不死鳥の都市を流れる

足羽川が流れる福井市は、戦災や震災などの災禍から再び三度と蘇ったことから、不死鳥をシンボルとしています。足羽川は、古くから舟運や利水で地域の繁栄を支える一方、復興再生を余儀なくされる災禍の原因ともなりました。

足羽川・足羽山周辺



葛飾北斎「諸国名橋奇覧 忽ちせんふくの橋」(福井県立美術館所蔵)

九十九橋

足羽川には、戦国時代から足羽川に架かる福井城下唯一の橋といわれた「九十九橋」があります。現在は鋼床版の鉄橋ですが、戦国武将柴田勝家が架橋した、北半分が木造、南半分が石造の「半石半木」の奇橋として有名でした。明治42年の河川改修以降、木造トラス等に変わっています。軍事上（木造部が壊しやすい）、工事や復旧（水勢の強い北半分を木造に）、舟運（木造部で径間を確保）など、理由には諸説あるそうです。



堂田川（徳光用水）

足羽川から取水し約200haに灌漑する足羽川用水は、奈良時代の莊園内水路を起源とし、水争いの絶えなかった多数の用水を、約300年前の江戸時代に合口化し、各用水に分ける現在の姿になったそうです。宿場町として栄えた東郷地区を流れる堂田川（徳光用水）は、親水路として整備されています。足羽川用水は、平成28年に「世界かんがい施設遺産」に登録されました。



足羽川の水利用



足羽川の桜並木

堤防沿い約2.2kmには、約600本の桜並木があり「日本さくら名所100選」にも選ばれています。昭和20年の福井空襲、昭和23年の福井地震と震災直後の洪水からの復興を記念し昭和27年に開催された福井復興博覧会を機に市民の浄財で植樹されました。足羽川の桜並木は、市内各地に植えられた桜が一齊に咲く「ふくい桜まつり」の最大の見どころとなっています。

足羽川の昔の流路と放水路

足羽川が日野川に合流する下流部は放水路になっています。蛇行のため氾濫を繰り返していた足羽川では、明治33～42年に内務省直轄工事として下流部に放水路を開削、昭和4～6年には足羽山麓の笏谷に蛇行していた河道を直線化しました。足羽川放水路はその後の福井市西部地域発展の基礎となりました。



繼体天皇

足羽神社は、足羽山に鎮座し繼体天皇を祀る「越前祖神」と称される神社です。境内のしだれ桜は樹齢約380年。明治33年の大火や福井空襲、度重なる雪害に遭いながらも復活し、福井復興のシンボルとして優美な姿を見せています。

足羽山の山頂に笏谷石で造られた約5mの繼体天皇像があります。三国に河口を切り開き、大きな湖沼の水を流して豊かな福井平野に変えたという治水伝説にちなみ、繼体天皇像は今も九頭竜川河口の三国の方角を見守っているそうです。



一乗谷朝倉氏遺跡周辺

復元町並と笏谷石製の井戸枠

足羽川支川一乗谷川が流れる一乗谷には、戦国大名朝倉氏の城下町であった一乗谷朝倉氏遺跡があります。戦国時代の城下町の原形がほぼ完全に保存された形で発掘されており、屋敷跡や町屋跡の一部が立体的に復元されています。遺跡のあちこちに笏谷石製の井戸枠がありました。



一乗谷川

一乗谷朝倉氏遺跡を流れる一乗谷川は、螢舞う里川として福井県により整備されています。出土した石垣に河川法線を合わせて自然石護岸として活用するなど、発掘や町並復元と一緒に整備されています。土木学会デザイン賞2015最優秀賞を受賞しました。



一乗谷の瓜割清水

一乗谷朝倉氏遺跡の近くに、瓜割清水があります。「うりわり」という湧水は全国にあるようですが、一乗谷の瓜割清水は、古くから朝倉氏の御膳水に供したと伝えられています。今も地元の生活用水として利用されているそうです。

石敷遺構

一乗谷川合流後の足羽川には、一乗谷と日本海を結ぶ川跡と推定される「一乗の入江」があり、石敷遺構が発見されています。一乗谷朝倉氏遺跡博物館内で見ることができます。



一乗谷の瓜割清水

一乗谷朝倉氏遺跡の近くに、瓜割清水があります。「うりわり」という湧水は全国にあるようですが、一乗谷の瓜割清水は、古くから朝倉氏の御膳水に供したと伝えられています。今も地元の生活用水として利用されているそうです。

平成16年の福井豪雨による
被害と対策

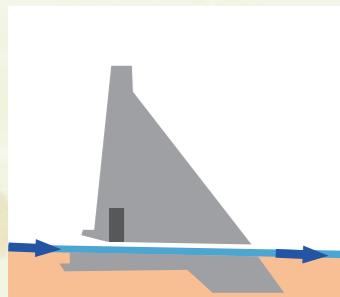


足羽川ダム工事の状況(5月)【提供:国土交通省足羽川ダム工事事務所】

流水型ダムイメージ

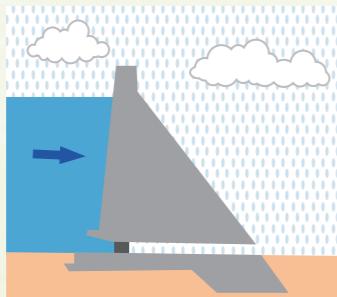
平常時

川の水をそのまま流します。



洪水時

一時的にダムに水を貯め、
洪水後に安全な量だけ下流に流します。



められています。足羽川ダムは、日本最大規模（ダム高、堤体積、洪水調節容量）の流水型ダムです。平常時は水を貯めず、川の水をそのまま流し、洪水時にのみ、一時にダムに水を貯めて、洪水後に下流に安全な量だけ流します。

また、より多くの洪水をダムに集めるため導水トンネルが計画され、

計画高水位に到達、左岸では12時15分頃越水開始、福井市春日から泉橋の間約900mに渡って越水し、右岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活発化して足羽川流域を中心とした狭い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

平成16年7月、新潟・福島豪雨を

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

の間約900mに渡って越水し、右

岸も4箇所で越水しました。そして、

13時35分頃、春日1丁目付近

で左岸堤防が決壊、住宅街が濁流に

もたらした梅雨前線が南下、再び活

発化して足羽川流域を中心とした狭

い範囲に豪雨が集中し、足羽川流域

に未曾有の被害をもたらしました。

足羽川下流部では18日10時30分頃

計画高水位に到達、左岸では12時15

分頃越水開始、福井市春日から泉橋

な る か 九頭竜川鳴鹿大堰

鳴鹿大堰は、治水、流水の正常な機能の維持、水道用水の3つを目的として、老朽化した鳴鹿堰堤を改築、平成16年3月に事業が完了しました。

堰全体のデザインは、管理橋に繋がれた“水面を穏やかに彩る鳴鹿の舟橋”を、堰柱の2本突き出た油圧シリンダは



鳴鹿の由来

大連國等がこの土地の田畠に水が得られるよう春日神社へ祈願したところ「九頭竜川を、川上に尋ねて登れ」と、お告げがありました。川上に向かうと、山鹿の山から神の白鹿が御幣と棒を持って現れ、九頭竜川の岩に立ち三声鳴きました（それでこの辺りを『鳴鹿』といいます）。神の鹿は西に走って皆を導き、やがて御幣と棒を残していなくなりました。そこで鹿の鳴いた所（鳴鹿）に堰を作り、鹿の走った足跡に沿って水路を掘り用水（旧十郷用水）としました。おかげでこの辺り一帯は豊かな土地になりましたと伝えられています。



ほんがんしょうず 本願清水

大野市は、昭和46年頃から地下水使用量の増加と涵養量の低下により、市内有数の湧水である「本願清水」が枯渇するという経験をしました。地下水審議会を昭和48年に設置し、湧水復活を目指して、地下水監視、利用抑制の条例制定、冬期水田湛水、涵養林保全などが実施され、地下水位が上昇。かつての湧水の再生に成功しました。また、本願清水は、国指定天然記念物（昭和9年指定）「イトヨ」の市内最大の生息地となっており、保全センター「イトヨの里」が設置されています。地域の人々が利用し、子供たちが遊ぶ「清水」は、市民によって愛され、継続的な地下水保全活動で支えられています。



おしおず 名水百選 御清水

越前大野城の御膝下に位置する一帯は、江戸時代には武家屋敷が建ち並び、人々は生活用水として御清水を使っていました。常に清潔に保ち、上流から順番に飲料水、果物などを冷やすところ、野菜などの洗い場などと定めて大切に使われていました。上流側に祀られたお地蔵さんにはお花とお供え物が並べられ、水と共に生きる「湧水文化」、「自然の恩恵」に対する「おもてなし」の心、人々の「命の水」への感謝の気持ちが表れています。



エッセル堤(三国港突堤)



ヨハネス・デ・レーヶ監督し、オランダ土木技術であった粗朶沈床工が我が国で初めて河口処理に用いられた構造物です。明治6年にオランダから招かれたエッセルは、氾濫を繰り返す九頭竜川や足羽川などで、護岸や水制として沈床工の指導を行いました。また、九頭竜川河口の三国港では、土砂堆積により河床が高くなり、船舶の航行に支障をきたしていました。そこで、エッセルは九頭竜川河口右岸に導流堤を築き、その対岸には水制を設置して河口の流速を速め、土砂の沈降を防ぐ方法を採用しました。エッセル堤は重要文化財に指定され、現在も導流堤兼防波堤としての機能を果たしています。



頭竜川は、豪雪地帯の山地の豊かな原生林に蓄えられた水が源流となっています。水は、途中で伏流水として地下に浸透し、多くの場所で、凍した湧水・清水となり「命の水」として湧き出ます。硬すぎ柔らかな味わいのある美味しい清水は、大切に使われ守られ、暮らしを支える小さな水場として、今も人々に愛され親しまれています。

福井の名は、清らかな水が豈にあふれ出ることに由来しているという説をご存じでしょう？ 司馬遼太郎は、「地名のおこりは諸説あってさだかではないが、天守閣のそばに福ノ井といふ表現こそふさわしい」と記しています。

今回訪れた九頭竜川は、鳴鹿を頂点として大きな扇状地を作り、さらに下流には福井平野が開けています。古くは「崩れ川」ともよばれた暴れ川で、古くから流域に大水害をもたらしてきました。また、渴水による悲劇や、湧水の大切さを伝える多くのしるしが残されています。この流域における治水と利水は、相即不離の関係であると感じずにはいられません。風光明媚な自然に囲まれた九頭竜川流域を、名水や水にまつわる伝承とともにご紹介します。

永平寺の正門

正門両脇の石柱に、「杓底一ざんすい」 「ながれをくむせんおんにん残水」「流千億人」の文字が彫られています。永平寺第七十三世住職、熊澤泰禪が作られた五言詩の後ろ二句で、川から柄杓で汲んだ水を必要な分を使い、残りは元の川の流れに戻したという、永平寺を開いた道元禅師の故事を表したもので、「柄杓の底に残った水もかけがえのないものであり、流れに戻せば多くの人々が使うことが出来る」という、自然やものを大切にし、他者への思いやりを大切にする道元禅師の教えは今の時代に即したものではないでしょうか。



真名川ダムと麻耶姫

真名川ダムは、福井県大野市、一級河川・九頭竜川水系真名川に建設されたダムです。高さ127.5mのアーチ式コンクリートダムで、治水と発電を目的とした多目的ダムです。

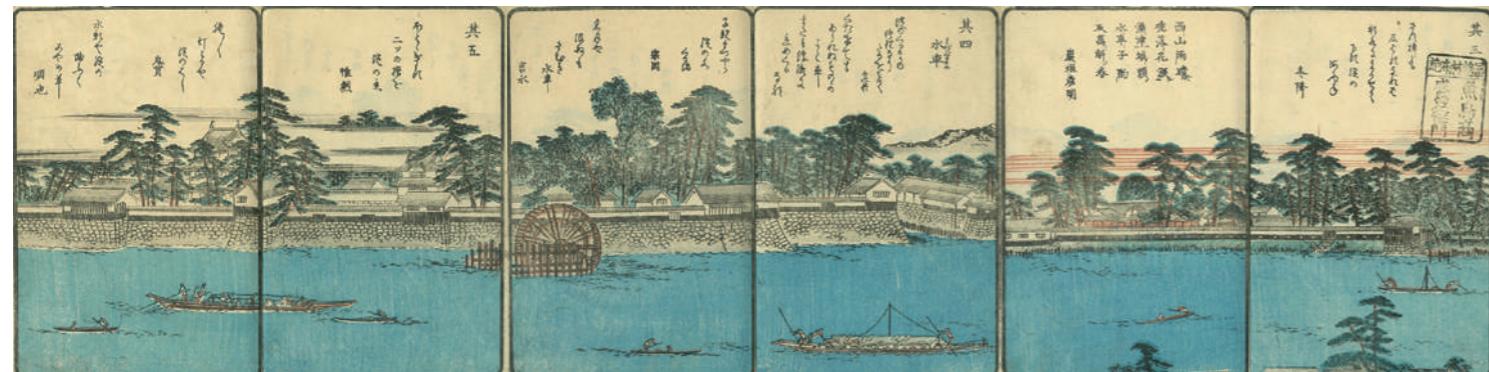
このダム湖（人造湖）の名を麻耶姫湖といい、左岸の公園「春の里」には麻耶姫の銅像があります。十文字長者の娘である麻耶姫は、干ばつから村人を救おうと竜神さまの住む淵に身を投じたと伝えられ、真名川の名の由来になっています。



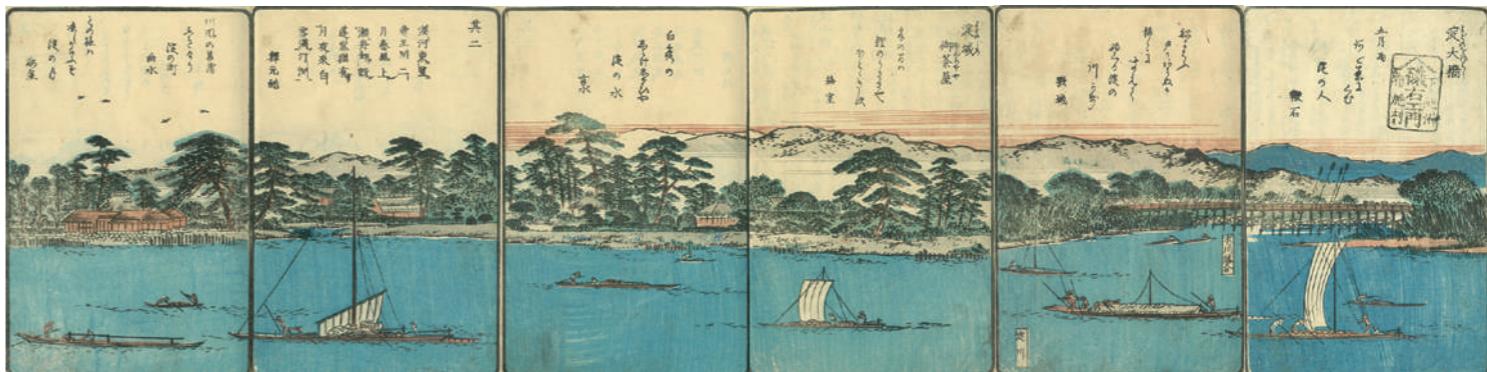
『麻耶姫伝説』

ある年に空梅雨と夏の日照りが続き、田畠はひび割れ、川は水が涸れ、井戸水もわずかとなった。水の取り合いで喧嘩が起り、人がも出たため、困った村人は雨乞いをして、神・仏に願い続けた。ある夜、十文字長者の夢枕に「娘の麻耶姫は泣き悲しみ、父の苦しむ姿を知った麻耶姫は人々を救えるのなら、喜んで竜神さまにこの身を捧げましょう」と、高い崖から碧く深い清らかな淵に飛び込んでいった。たちまち雷とともに滝のような雨が降り、田畠が生き返った。村人はみな心を打たれ、涙を流しています。





淀城 御茶屋:12枚の絵図(『淀川両岸一覧』(1863年)より)【国土交通省淀川河川事務所 所蔵】



忽然と現れる淀城。川沿いに約1kmにもおよぶ石垣が続く。元禄4（1691）年、阿蘭陀商館長であるカピタンの江戸参府に同行したドイツの博物学者であるケン・ベルは次のように記している。

町の外回りにも、町の中にも川が流れている。(略)。町の西側にある城は、広い川の真ん中にあり、荒削りの石で堂々と築かれていて、外側の城壁の角と中央には日本の建築法によつて建てられた幾層かの白い櫓があり、大へん美しくわれわれの目をひいた。掘をめぐらし石を積み上げた外郭の城壁はずつと町の際まで延びてゐる。(『江戸参府旅行日記』元禄4年2月28日)

この記述から淀は、城の石垣を中心とした水平の線からなる景観特性をもつていたことがわかる。ヨーロッパの湖面に浮かぶ、点としての城とは異なる美しさを放つていたのではないだろうか。さらについに絵を見ていくと、石垣の上に配置された七ヶ所の物見櫓と50本余りの城中の松が連続的に描写される單調な情景のなかに、ランドマー

町の外回りにも、町の中にも川が
流れている。(略)。町の西側にある
城は、広い川の真ん中にあり、荒削
りの石で堂々と築かれていて、外側
の城壁の角と中央には日本の建築法
によつて建てられた幾層かの白い櫓
があり、大へん美しくわれわれの目
をひいた。掘をめぐらし石を積み上
げた外郭の城壁はずつと町の際まで
延びてゐる。(『江戸参府旅行日記』)

蒸気船による淀川通船のために明治8（1875）年から明治21（1888）年にかけて行われた。明治維新を迎え、西洋文化を取り入れたことにより、明治21年には伏見丸や大阪丸など13隻の蒸気船が行き交い、その年間乗船数は京都府が184,085人、大阪府が327,626人と、賑わいを見せている。

今と同様に、洪水は繰り返される。明治18（1885）年の6月中旬から7月初旬の洪水による被害は大きく、当時の大阪府の約20%に当たる約7万戸が浸水をした。



三川合流の図（『大阪淀川探訪』（2012年）より）



石碑「淀小橋旧趾」

間（270m）に拡幅されたことで、前述の興杼神社（淀姫神社）も明治35（1902）年に淀城跡に遷宮された。移設前の神社は、桂川に架かる宮前橋の中央付近にあった。この改修で水垂町、大下津町の民家も移転することとなつた。先に述べた淀津の遺構が確認された河川敷地の発掘調査からもわかるように、現在

この水害を受け明治29（1896）年に河川法が制定され、着手したのが「淀川改良工事」である。この工事は伏見の観月橋下流から八幡地域の木津川合流点までの約10kmに堤防を築き、桂川を西に動かし、宇治川を淀の南側に付け替えरるという内容であった。この工事にともない、淀小橋はなくなることとなつた。現在、宮前橋の東、府道124号（三栖向納所線）の納所側には「淀小橋旧趾」と刻まれた石碑が建てられてゐる。桂川も150

方で、巨椋池など遊水地としての機

間（7・2m）とあり、川の土砂が堆積したことから小さくなつたと考えられる。

(10・8m) の大小二つの水車がある。『明治以前日本土木史』には、慶応3(1867)年には直径が4

された木桶が自動的に水を汲みあげると賞讃している。水車の大きさについて、『掃聚雑談』（1771年）

る李聖麟が「淀浦」の中で水車を描き、従事官である曹命采が16枚の羽根がついた水車が流れによつて回り、それぞれの羽根に寸ナラ

絵図に描かれている淀水車は、その大きさゆえに異彩を放つていい。側にある柵は、水車を流木などから守るために作られたのである。淀に宿泊した朝鮮通信使もろう。淀に宿泊した朝鮮通信使も水車には注視している。延享5(1748)年に通信使の画員であ

クとなる「淀水車」「淀大橋」など
が描かれている。旅人を乗せた三
十石舟や荷船も見られるなど、多
くの舟が行き交う美しい景観で
あつた。

能を有していたことから水害の記録が多く、『久御山町史（第一巻）』（1986年）には以下の記載がある（要約抜粋）。



明治18年の水害（瓦版 各国洪水飛報より）

史を見ることができる。現在、『EXPO2025大阪・関西万博』に併せて、大阪湾から伏見までの舟運再開が図られている。新たな舟路が地図に記されることで、「暮らしと河川」の関係に一石を投じてくれるることを願っている。

水と文学 空海の風景

評論家・文化プロデューサー

河内厚郎



歩いた。現在の徳島市域から南下して阿南市を過ぎると、多くの島嶼が浮かび、鋸の両刃が突き出したような岬をくぐり、椿（現・阿南市）のあたりまで来ると、冬でも気温が暖かくなる。そのあとは、山中に入り込んだと思いつきや入り江の磯に向かい、また断崖から逃げるようにならへ入るという、繰り返しをつづけて室戸岬にたどり着く。

司馬遼太郎が想像力を思いきり膨らませて、日本思想史上の巨人を捉えようとした小説に『空海の風景』がある。

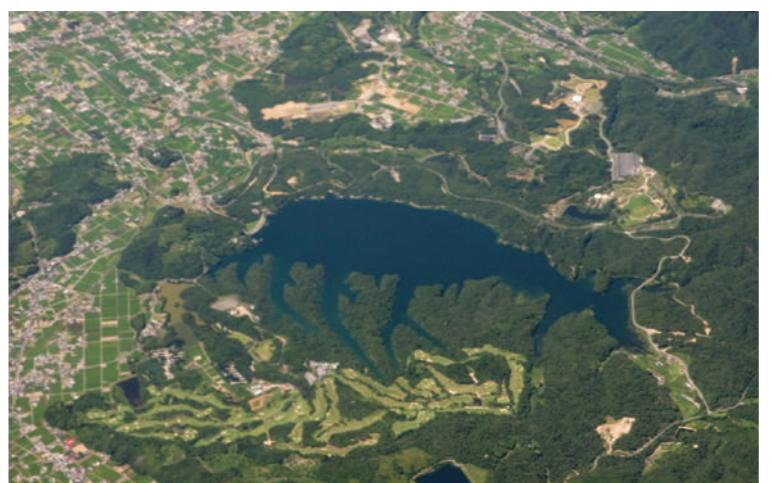
空海が改修した日本最大の灌漑用ため池・満濃池（香川県仲多度郡）には「空海が渴水にあえぐ民のため、地に錫杖をついて湧き出させた水が池となつた」という伝説がある。水を操り渴水を呼んで民衆を苦しめた龍が、法力により調伏させられ、空海のしもべとなつて池と人々を守ってきたという。〔：〕



小説『空海の風景』

空海は一千余年のあいだ日本列島の数限りない人々の生活の隅々に

微塵となつてしまふおり、光量とルギーそのものと化していく、生理的人間としてのその足跡のひとつひとつも、むしろ伝説に昇華させられている」（大岡信）



満濃池【提供：photolibrary】

空海（弘法大師、774～835）は現・香川県善通寺市で生まれた。生誕千二百五十年目に当たる

2023年、高野山真言宗総本山の金剛峯寺（和歌山県伊都郡）では、さまざまな記念行事が行われた。

2023年、高野山真言宗総本山の金剛峯寺（和歌山県伊都郡）では、さまざまな記念行事が行われた。

2023年、高野山真言宗総本山の金剛峯寺（和歌山県伊都郡）では、さまざまな記念行事が行われた。

空海（弘法大師、774～835）は現・香川県善通寺市で生まれた。生誕千二百五十年目に当たる

2023年、高野山真言宗総本山の金剛峯寺（和歌山県伊都郡）では、さまざまな記念行事が行われた。

2023年、高野山真言宗総本山の金剛峯寺（和歌山県伊都郡）では、さまざまな記念行事が行われた。

2023年、高野山真言宗総本山の金剛峯寺（和歌山県伊都郡）では、さまざま

なみでくるという、若き日の空海が体验した奇蹟を想像上で再現していく。

空海が雨露をしおぐため入り込んでいたとおぼしき洞窟は現存している（御厨人窟、御藏洞）。「宇宙は、この潮が岩を穿つてつくつた窓によつてすべての夾雜（まじまざ）するものをすて、ただ空と海だけの單一な構造になつてしまつて」、「天にあつて明星がたしかに動いた。見る見る洞窟に近づき、洞内にと

びこみ、やがて凄まじい衝撃とともに口中に入つてしまつた」

山上に『長安』を見て

司馬遼太郎は戦争中、学生のまま兵隊にとられるというので、友人二人と吉野から南下し、熊野の山塊を突き抜け、潮ノ岬へ出ようと、吉野の下市の駅舎に集まり、山へ入った。昼間は暑さが辛いので山中のお堂や炭焼き小屋で睡眠をとり、夜、星明りを頼りに歩いた。黒滝村・天川村・大塔村を経て、さかのぼっていく途中（吉野川と十津川の分水嶺になつて）いる天辻峠を越えると大塔村になる。十津川村は歴史の秘境ながら、低地の政治へ関心をもちつづけ、一種の独立を保ち得た唯一の山郷であつたと司馬は説く）、川筋を取り違えたのか、ゆくほどに流れが細くなり、歩くのに難渋した。

一晩中登りにのぼるうち、ふいに山上に都会が現出した。夢の中に入るような気持ちで門燈に寄つて人々に聞くと、ここは高野山だ



高野山【出典：Googlemap3D】

ここからは司馬の想像に委ねる――9世紀初頭に空海が留学した長安（現・西安）は、中国人とは容貌や文化を異にする西域人・胡人、そしてインド僧など、多くの人種が集まる国際都市であり、ササン朝ペルシャがイスラム勢力に驅逐されてイラン人が東遷、大唐国に入ってきていた。その都・長安で、高度な知識を有する文化人たちと交わった空海により、2年の留学

された空海により、2年の留学に入つて來た。その都・長安で、教伝來の事実を刻んだ石碑「大秦景教流行中國碑」を模したもののが、

空海の建てた高野山の金剛峰寺に、西

安（かつての長安）にある景

教伝來の事実を刻んだ石碑「大秦

景教流行中國碑」を模したもののが、

空海の建てた高野山の金剛峰寺に、

西

安（かつての長安）にある景

教伝來の事実を刻んだ石碑「大秦

景教

あり、司馬は初期の小説『兜卒天の巡礼』で、景教が日本に伝來していたという話を書いている。



現在の西安【提供：PIXTA】

帰国した空海は和泉の施福寺（大阪府和泉市槇尾山町）に滞在した後、京都の高雄山寺（現・神護寺）に入り「國家鎮護の修法」を行う。さらに乙訓寺（京都府長岡京市）に移った後、高雄山寺へ帰還して、最澄（伝教大師）らに「金剛界灌頂」をつづけて「胎藏界灌頂」を授けている。

嵯峨天皇から東寺を賜った空海は、最終的な本拠地として高野山を所望する。その折の上奏文を直訳すると、「山が高ければ雲雨は草木をうるおし、水積れば魚竜があつまる、このゆえに、インドの靈鷲山（釈迦の説法した所）には釈尊の徳が消えることはなく、また南インドの補陀落迦山には觀世音菩薩の靈験が今なお絶えることがない。そのわけは、地勢がおのずからそうなのである」と、あらたに仏都となる地を望んでいるのだが、本当は長安の幻を日本に再現したかったのかもしれない――



大秦景教流行中国碑(高野山)

木をうるおし、水積れば魚竜があつまる、このゆえに、インドの靈鷲山（釈迦の説法した所）には釈尊の徳が消えることはなく、また南インドの補陀落迦山には觀世音菩薩の靈験が今なお絶えることがない。そのわけは、地勢がおのずからそうなのである」と、あらたに仏都となる地を望んでいるのだが、本当は長安の幻を日本に再現したかったのかもしれない――

司馬遼太郎の残した歴史小説は、没後27年たった今も広く読み継がれている。多くの読者は司馬の描く人物や事件をあたかも歴史的事実のように受け入れ、フィクションの形をとったノンフィクションとして読むケースが多いけれども、司馬自身よく文中で「これは小説である」と何度もことわりを入れていたように、それらはよく出来た「物語」であって、「これだけの手練は容易にいるものではな

司馬遼太郎の歴史観は大局的に見れば概ね妥当といえるだろうが、そのひとつをその当時生きた当事者たちの身になって受けとめるなら、違和感を覚えることも少なくない。城山三郎は司馬遼太郎を「高みから神の目で書いている」、山口瞳は「作家は患者の立場に身體を置こうとするのに、司馬は医者の立場で描いている」と批評している。(第1回司馬遼太郎賞を断つた吉村昭は、とことん史実に忠実な作家であった)。私もそうした司馬遼太郎観に同調はするけれども、しかし、それでも司馬が大作家であつたことは確かである。

司馬遼太郎が晩年近くになつて書きたいことを思いのままに書いた『草原の記』。主人公はツエベクマさんという、モンゴルで司馬遼太郎の通訳をつとめた女性である。ロシア・満州・中国の国籍を転々とし、日本の支配、ソ連の侵攻、中国文化大革命の嵐を経験。政治には裏切られつづけ、故郷も夫も

欲や所有欲、さらに時間への征服モンゴル人に乏しかつたのは物ことだつたらしい。



小説『草原の記』

が訛つて異なるように聞こえる」と推理を進めていく。そして、原日本人（縄文人）と弥生人との混血らしき（混血には天才が出ることがしばしばある）空海のルーツを探つた。

司馬夫人の福田みどりによると、『空海の風景』は生前の司馬が最も気に入っていた作品であり、サン本を献本する際にも必ず本作を用いて、富士靈園の「文學者之墓」(日本文藝家協会会員の共同墓)にも本作が埋葬されているという。

『空海の風景』は生前の司馬が最も気に入っていた作品であり、サン本を献本する際にも必ず本作を用いて、富士靈園の「文學者之墓」(日本文藝家協会会員の共同墓)に

が訛つて異なるように聞こえる」と推理を進めていく。そして、原日本人（縄文人）と弥生人との混血らしき（混血には天才が出ることがしばしばある）空海のルーツを探つた。

司馬夫人の福田みどりによると、『空海の風景』は生前の司馬が最も気に入っていた作品であり、サン本を献本する際にも必ず本作を用いて、富士靈園の「文學者之墓」(日本文藝家協会会員の共同墓)にも本作が埋葬されているという。

司馬遼太郎の残した歴史小説は、没後27年たつた今も広く読み継がれている。多くの読者は司馬の描く人物や事件をあたかも歴史的事実のように受け入れ、フィクションの形をとったノンフィクションとして読むケースが多いけれども、司馬自身よく文中で「これは小説である」と何度もことわりを入れていたように、それらはよく出来た「物語」であって、「これだけの手練は容易にいるものではな

歴史をつくる、歴史に生きると、人類はむきになつてきたが、この世界は歴史をものともしない生き方もて書かれたこの本は彼の歴史観を明らかにしている。

近代大阪が生んだ詩人といえばた詩人・伊東静雄（1906～1953）の菜の花忌は、毎年3月の最終日曜日、長崎県の諫早公園で追悼行事が行われている。諫早市の文化行政担当者は、あとからづけた団体に異議を唱えたが、「もう決まってしまったから」と聞き容れてくれなかつたところぼしていられたが、もし泉下の司馬がこのことを知つたら迷惑がつたに違いない。

三好達治（大阪市が三好達治賞を主宰していたが廃止された）が真っ先に思い浮かぶが、大阪に住んで生活した詩人となると伊東静雄であろう。阪神尼崎の南側の再開発でやむなく閉店した喫茶店「獨木舟」は、伊東静雄の有名な詩から名が採られ、薄紙の伝票の裏には細字で静雄の詩が印刷してあった。文芸愛好家の溜まり場でもあった。

令和5年は司馬遼太郎（1923～1996）の生誕100年、空海の生誕から1250年に当たる。

高野山根本大塔

が訛つて異なるように聞こえる」と推理を進めていく。そして、原日本人（縄文人）と弥生人との混血らしき（混血には天才が出ることがしばしばある）空海のルーツを探つた。

司馬夫人の福田みどりによると、『空海の風景』は生前の司馬が最も気に入っていた作品であり、サン本を献本する際にも必ず本作を用いて、富士靈園の「文學者之墓」(日本文藝家協会会員の共同墓)にも本作が埋葬されているという。

司馬夫人の福田みどりによると、『空海の風景』は生前の司馬が最も気に入っていた作品であり、サン本を献本する際にも必ず本作を用いて、富士靈園の「文學者之墓」(日本文藝家協会会員の共同墓)に

が訛つて異なるように聞こえる」と推理を進めていく。そして、原日本人（縄文人）と弥生人との混血らしき（混血には天才が出ることがしばしばある）空海のルーツを探つた。

司馬夫人の福田みどりによると、『空海の風景』は生前の司馬が最も気に入っていた作品であり、サン本を献本する際にも必ず本作を用いて、富士靈園の「文學者之墓」(日本文藝家協会会員の共同墓)に

が訛つて異なるように聞こえる」と推理を進めていく。

